

Patsnap と TokkyoAI と従来型特許生成AIツールの比較研究

エグゼクティブサマリー

本調査で確認できた最も大きな差は、AIを特許業務の各工程に「埋め込んでいる」か、それともAI自身が検索・分析・起案・検証をまたいで仕事を「取り回す」かにあります。公開資料ベースでみると、PatSnapは「task-specific AI agents」「12-step Novelty Search loop」「8-step FTO loop」まで公開し、TokkyoAIは「複数AIの役割分担」「Deep Search/Deep Analysis/Deep Proposal」「思考・調査プロセスの可視化」を前面に出しており、両者は明確にエージェント型です。これに対し、Genzo AI、Summaria、AI Samurai、Patentfieldは、生成AI機能が強力であっても、基本はユーザー主導の画面操作・モジュール選択・個別ワークフロー起動が中心で、自治度は相対的に低いと整理できます。もっとも、Summariaの「拒絶支援ワークフロー」「エージェント機能」やAI Samurai ZEROの対話型起案など、完全な非エージェントとまでは言い切れない中間形も存在します。 ¹

PatSnapの強みは、大規模な自社データ基盤と、それを呼び出すエージェント・API・MCPの一体化です。PatSnapGPTはproprietary innovation data上で訓練されたdomain-specific LLMとされ、3.5B+のcurated innovation sources、210M patents、216.3M non-patent literature、172 jurisdictionsを基盤にしています。加えて、Open Platform側では30+ MCP servers、LangChainやClaude Desktopとの接続、Novelty/FTO/Technology ExplorationのワークフローAPIが公開されており、エンタープライズ内製ツールや外部AIエージェントへの組み込みという点で、今回比較した製品群の中で最も「AIネイティブ」かつ「開発者向け」に振れています。 ²

TokkyoAIの強みは、日本語中心の知財実務に合わせたSaaSとして、エージェント性・説明可能性・価格のバランスがよいことです。FAQでは機能ごとに複数の生成AIを使うとだけ述べ、全モデル構成は開示していませんが、価格ページやアップデート告知ではChatGPT APIとChatGPT-4oの実装を明示し、2025年末のDeep Researchでは検索式・分析過程まで見える「ディープエージェント方式」を打ち出しました。しかも専用環境・専用ドメインで検索履歴等を環境外に出さず、二次利用もしないと明記しています。反面、PatSnapほどAPI、MCP、外部オーケストレーション、FTO専用APIのような開発者向け公開インターフェースは確認できませんでした。 ³

従来型グループは、単に「古い」のではなく、特定工程を安定して深く支援する設計が多い点が重要です。Genzo AIは島津製作所由来のHuman-in-the-Loopを中核に置き、届出・中間処理・先行文献・FTO・契約レビューをモジュール化しています。Summariaは特許文書読解支援に強く、比較、分類、拒絶支援ワークフロー、クレームチャート生成など、公報読解とスクリーニングの生産性向上に寄せた設計です。AI Samuraiは特許性評価A~D、類似文献評価、対話型起案、類似特許参照起案が強く、PatentfieldはAIサマリー、AI検索、AI分類予測、AIRによる大量査読・可視化・ポートフォリオ分析・API連携が強いです。つまり、従来型は「一つの大きなエージェント」に仕事を渡すより、検索、査読、分類、起案、可視化を必要に応じて呼び出す思想が強い、と言えます。 ⁴

調査の前提と読み方

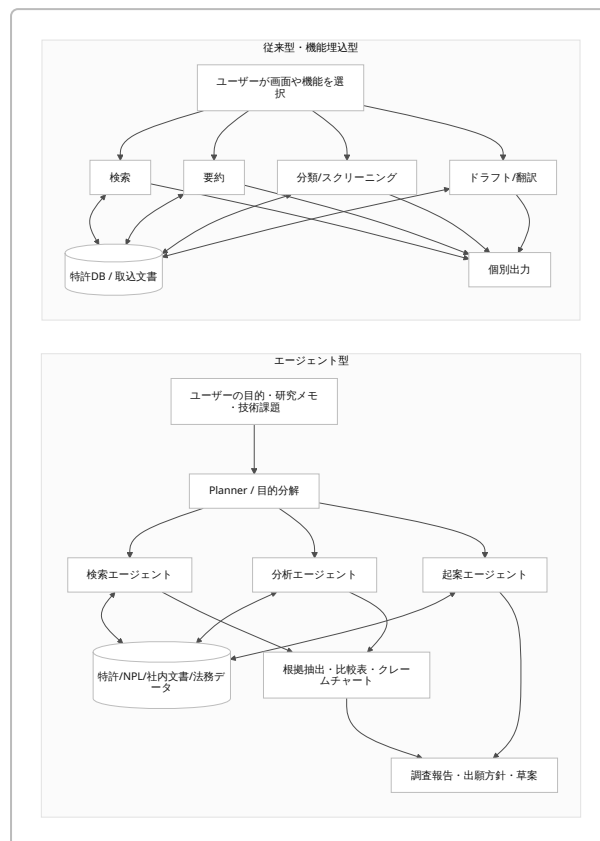
本報告は、2026年6月5日時点で公開されている公式製品ページ、公式ヘルプ、利用規約、セキュリティ説明、公式パンフレット、公式ケーススタディ、企業自身のプレス発表を優先して作成しました。JavaScript非対応や403のために本文抽出できないページは、検索エンジンの抜粋やPDF/スクリーンショットで補いま

した。なお、「エージェント型」か否かの判定は、公開資料上で「目的分解」「複数AIや複数ツールの役割分担」「検索→分析→提案/草案までの自律連鎖」「思考過程やワークフローの明示」があるかどうかを基準としています。したがって、内部実装が非公開の製品については、ベンダーが開示した範囲でのみ判定しています。 5

今回の比較軸のうち、ベクタDB製品名、Embeddingモデル名、fine-tuningの具体的手法、RAGの内部キャッシュ戦略は、ほとんどのベンダーが公開していません。そのため本報告では、①公開資料で確認できる事項、②公開資料から高い蓋然性で推定できる事項、③公開情報では未確認の事項、を分けて書いています。特に「vector DBは何を使うか」は、PatSnap、TokkyoAI、Genzo AI、Summaria、AI Samurai、Patentfieldのいずれについても具体名の公開確認はできませんでした。 6

アーキテクチャの差分

エージェント型と従来型・機能埋込型の違いは、下図のように整理できます。左側はPatSnapやTokkyoAIに近い構造で、ユーザーが「何をしたいか」を渡すと、AI側が検索・分析・草案化を連鎖実行します。右側はGenzo AI、Summaria、AI Samurai、Patentfieldに近い構造で、ユーザーがモジュールや画面を選び、その中で生成AIを使う構造です。もっとも、Summariaの拒絶支援ワークフローやAI Samurai ZEROは右側の中でもやや左に近い「ハイブリッド」です。 7



PatSnapの場合はEureka側で「Ask / Research / Solve / Draft / Validate」という agentic workflow を打ち出し、Open Platform側では novelty と FTO の multi-step loop を API 化しています。TokkyoAIはDeep Search、Deep Analysis、Deep Proposalを一体として回し、しかも思考・調査プロセスを可視化すると説明しています。これに対し、Genzo AIは「Human-in-the-Loop」「6モジュール」、Patentfield AIRは「STEP1 査読条件作成 → STEP2 検索条件追加 → STEP3 査読結果確認」、SummariaはAIアシスタント・対比支援・分類支援・拒絶支援ワークフロー、AI Samuraiは検索・審査シミュレーション・文書作成・対話型

起案というモジュール主導です。つまり、差は「LLMの有無」ではなく、**オーケストレーションの所在が人がAIか**にあります。 8

製品横断の詳細比較

アーキテクチャとオーケストレーション. PatSnap は「AI-native intelligence stack」「task-specific AI agents」を掲げ、Open Platform で novelty/FTO/technology exploration の multi-step workflow を API と MCP で外部エージェントに接続できます。TokkyoAI は SaaS 内で完結する形ながら、複数AIが役割分担するディープエージェント方式を明言し、検索・分析・提案書/特許ドラフト作成までを自律実行するとしています。これに対し、Genzo AI は「AI×人協働」を明示し、必要機能をパッケージで選ぶ Human-in-the-Loop、Patentfield AIR は検索母集団に対してワンクリックで生成AIを当てる査読フロー、AI Samurai は検索・評価・作成統合型、Summaria は読み込んだ特許群に対する比較・分類・クレームチャート生成を中心とするため、相対的に**AIが自ら次工程を決める度合いは低い**です。 9

LLMモデルの公開度と性格. PatSnap は PatSnapGPT を proprietary innovation data で訓練した自社ドメイン特化 LLM と明示しており、今回比較対象の中で最も「自社基盤モデル」に近い立ち位置です。TokkyoAI は FAQ で「機能ごとに複数の生成AIを使用」とし、価格ページと Genesis 告知では ChatGPT API と ChatGPT-4o を明示しますが、全体のモデル構成は公開していません。Genzo AI は OpenAI API と Google Gemini API をバックエンド利用と明記しています。Summaria はパンフレットで Azure OpenAI と「OpenAI GPT」連携を示しています。AI Samurai は 2023 年時点で GPT-3.5 を文書作成支援に使い、2025 年の外部サービス一覧では Azure OpenAI、Amazon Bedrock Claude、Google Gemini を利用すると開示しています。Patentfield AIR はモデルプロバイダーの API 環境を前提にしており、公式文書では GPT-4o / GPT-4o-mini を例示しています。公開資料の範囲では、**open-weight LLM を公式採用していると明示した製品は見当たりません**。 10

fine-tuning、few-shot、in-context learning. PatSnap は「trained on 3.5B+ expert-curated innovation sources」「trained on proprietary innovation data」と明示しており、公開資料で分かる範囲では単なるプロンプト工夫を超えて**モデル側のドメイン適応**を最も強く主張しています。他方、TokkyoAI、Genzo AI、Summaria、AI Samurai、Patentfield AIR は、公開資料では主に「カスタムプロンプト」「テンプレート」「プリセット」「反復質問」「他の生成済み項目や既存特許を参照しながら生成」といった説明が中心で、**具体的な fine-tune 手法は未開示**です。したがって、これらは少なくとも公開情報ベースでは、特許コーパス上の再訓練よりも、**プロンプティング、few-shot、in-context、retrieval 組み合わせの色が濃いとみるのが妥当**です。 11

RAGとベクタDB. PatSnap は every response に authoritative sources を付けるとし、Novelty/FTO API でも retrieval、feature comparison、claim charting を含む多段階ループを公開しているため、公開情報ベースでも RAG 色が非常に強いです。TokkyoAI は AI 検索で「キーワード+文脈」で一致率を判定し、Deep Research で意味ベース検索 → 構造化分析 → 提案までつなぐため、こちらも実質的には retrieval-augmented な設計とみられます。Genzo AI はアップロード資料と連携外部 DB を組み合わせ、FTO や先行文献調査を行います。Summaria は取込んだ複数特許や公報データを土台に比較・クレームチャート・拒絶支援を行う**文書グラウンディング型**です。AI Samurai は最大 250 件の類似特許を参照して文書生成し、ZERO では従来 AI Samurai 技術で先行文献を提示しながら対話起案します。Patentfield は AI セマンティック検索、AI サマリー、AIR で検索母集団に生成AIを当てる設計です。ただし、**Pinecone、Milvus、OpenSearch、pgvector など具体的なベクタDB製品名は、6製品とも公開確認ができませんでした**。 12

データソースとコーパス. PatSnap は 210M patents、216.3M non-patent literature、1.6B legal data points、172 jurisdictions を自社 curated dataset として掲げています。TokkyoAI は日本、米国、中国、韓国、欧州、WIPO、審判/訴訟系、企業情報までを収録対象に挙げています。Genzo AI は自社文書のドロップ投入と連携外部 DB を組み合わせる構成で、特に FTO は外部 DB 検索に依存します。Summaria は日本・米国・欧州・WO を中心に、中国・韓国公報の機械翻訳和文や台湾・豪州などもパンフレット上でカバーし、

公報番号から特許文献を読み込めるとしています。AI Samurai は日本・米国・中国を検索対象として明示し、IP Landscape 化されたマップや類似文献評価を提供します。Patentfield は約8,000万件のAIサマリー・データ、主要5庁+台湾+WO+DOCDBを公開しています。 13

更新頻度. PatSnap は patent coverage を daily updates と明示しています。Patentfield は収録範囲とアップデート情報ページが存在を公開していますが、特許データやAIサマリーの**定量的な更新頻度**は見当たりませんでした。TokkyoAI と Summaria も「〇年～最新」の収録年レンジは示す一方、日次・週次などの更新 cadence は未公開です。Genzo AI は連携外部 DB を使うと説明するものの、その更新頻度は未公表です。AI Samurai も検索対象国や機能は示しますが、コーパス更新の cadence は確認できませんでした。したがって、**更新頻度を明示できたのは PatSnap が最も明確**で、他は「最新まで収録」と「新機能アップデート」は示すが、定量 cadence は不明という整理になります。 14

IP・プライバシー・コンプライアンス. PatSnap は customer data を training に使わない、Enterprise では zero data retention commitment が可能、ISO27001 と SOC2 Type 1 を掲げています。TokkyoAI はユーザー専用環境で、検索履歴等は専用環境外に出さず、二次利用もしないと明記します。Genzo AI は OpenAI API / Gemini API の契約上、学習・二次利用を禁止していると説明しつつ、不正利用防止目的で最大30日保持の可能性を明記し、国内 AWS 保存・ユーザー主導削除・運営担当者アクセスなしまで公開しています。Summaria は Azure OpenAI、SSL 暗号化、AWS を示しますが、保持期間や学習除外の明示は本調査範囲では見つかりませんでした。AI Samurai は会社レベルのプライバシーポリシー・情報セキュリティポリシーに加え、外部サービス一覧で Azure OpenAI、Bedrock Claude、Gemini を開示していますが、モデル学習除外や保持期間の明示は見当たりませんでした。Patentfield AIR はモデルプロバイダーの API 環境を使い、API 環境では学習利用されない一方、OpenAI では最大30日保持され得ると説明します。つまり、**公開資料だけで最も具体的なのは Genzo AI と Patentfield AIR、最も強い enterprise pledge を出しているのは PatSnap、専用環境訴求が強いのは TokkyoAI**です。 15

説明可能性とトレーサビリティ. PatSnap は every response に source citation を付けることを明言し、claim interpretation や FTO でも structured comparison と report generation を出します。TokkyoAI は思考・調査プロセスや検索式・分析過程まで可視化する点を差別化要素にしています。Summaria はハイライト、詳細クレームチャート、対比クレームチャートにより、どの構成要素がどこに書かれているかを追いやす設計です。AI Samurai は類似文献、引例との一致点・相違点、クレームチャート出力が強みです。Patentfield AIR は通常検索結果画面に AI 査読結果を反映し、公報原文と照合しながら確認できます。Genzo AI は human review を前提とする点で品質統制は強い一方、引用元リンクや根拠段落の提示方法までの公開記述は見当たりません。したがって、**PatSnap は citation-based、TokkyoAI は process-based、Summaria / AI Samurai / Patentfield は document-grounded、Genzo AI は human-check-based の説明可能性と整理**できます。 16

特許実務機能. PatSnap は prior art / novelty、FTO、invention disclosure drafting、prosecution history view、AI search、AI summaries を備え、プラットフォーム全体では litigation data も取り扱うとしていますが、無効化・訴訟支援の専用 copilot 仕様までは本調査範囲で確認できませんでした。TokkyoAI は ChatTokkyo、意味検索、比較・分析、提案書ドラフト、特許明細書・請求項草案、画像検索を確認できましたが、FTO、invalidity、litigation support は MyTokkyo 公開資料では明示されません。Genzo AI は届出/出願、翻訳、中間処理、先行文献調査、FTO、契約レビューをモジュールとして公開しており、今回比較対象の中では**法務周辺を含めた業務自動化の幅**が広いです。Summaria は対比支援、分類支援、発明評価、拒絶支援ワークフロー、詳細クレームチャート、スクリーニング支援に強く、2026年3月の対外発表では明細書作成支援機能も追加したとされています。AI Samurai は審査シミュレーション、類似文献評価、検索、Word出力可能な文書作成、対話型 ZERO に加え、2025年には拒絶理由通知応答 AI の新機能を告知しました。Patentfield は AI サマリー表示・検索・分析、AI セマンティック検索、AI 分類予測、AIR による大量査読、ラベル付与、ポートフォリオ分析、発明評価が強い一方、JPO への直接出願や OA 提出代行のような filing / prosecution integration は公開されていません。 17

ワークフロー統合、UI/UX、カスタマイズ、API. PatSnap は API、MCP、Widget Studio、Enterprise integration、on-prem / secure deployment を揃え、最も強いです。TokkyoAI は専用ドメインのプライベート環境、フォルダ管理、検索履歴管理、テキスト/HTML ダウンロードを公開していますが、パブリック API は確認できませんでした。Genzo AI はファイルをドラッグ&ドロップして生成、プレビュー上で質問可能、カスタムプロンプト共有、導入支援を備えますが、公開 API は未確認です。Summaria は一括指示、追加指示スレッド、共有、コメント、Word/Excel 出力まで整備されている一方、DMS や patent office filing 連携の公開情報はありません。AI Samurai はスタイリッシュ GUI、擬人化したキャラクターデザイン、対話型 ZERO を特徴とし、IP SJ の実践報告でも心理的障壁・組織的障壁への対策として UI 改良や導入説明資料の重要性が論じられています。Patentfield は API 連携が明確で、社内グループウェア、Excel、自社アプリ、ChatGPT API 連携まで想定し、専用クラウド環境オプションも提供しています。 18

価格、ライセンス、対象ユーザー、言語. PatSnap は Open Platform で Starter 10,000 credits 無料、Pro は \$100 top-up、Enterprise custom を公開していますが、Eureka 本体の詳細価格は要問い合わせです。対象は IP、R&D、life sciences をまたぐ大企業・開発者・IP ソフトウェアベンダー寄り、日本語 UI も利用できます。TokkyoAI は 1ID 月額 35,000 円・初期費用 0 円、日本語 UI を中心に、生成言語は日本語・英語、対象は知財部門だけでなく経営陣・マーケティング・商品開発・研究者・中小企業まで含めています。Genzo AI は年間 100 万～1500 万円、年間 SaaS、ユーザー数無制限で、企業知財部、中堅中小、大学・研究機関向け、弁理士事務所向けは検討中です。Summaria はフリー、ミニマム、ビジネス、コーポレートの 4 層で、無料は日本語中心、上位プランは日英独中韓仏に対応します。AI Samurai ONE / ZERO は価格非公開で要問い合わせですが、現行サイトは日本語 UI と英中翻訳、企業・研究機関・行政・専門家向けを想定しています。Patentfield は Free、BASIC、Mini、Corp を公開し、AIR は月額 30,000 円～/ID、専用クラウドや API は別料金です。日本語志向の強さでは TokkyoAI、Summaria、AI Samurai、Patentfield が優位で、PatSnap はグローバル型だが日本語 UI・翻訳支援を備えます。 19

性能指標、評価方法、公開事例. PatSnap はベンダー独自 benchmark である PatentBench と USPTO patent bar exam を提示し、Novelty Search AI Agent の Top100 内 X-document hit rate 81%、PatSnapGPT-1.0 の patent bar score 74 を示していますが、**独立第三者評価ではなく自社評価**である点は留意が必要です。TokkyoAI は「15 時間程度→1～2 時間以内」で特許出願依頼文作成を短縮した事例や、法律事務所/大学/企業知財部の導入ページを公開しています。Genzo AI は正式提供が 2026 年 5 月と新しく、現時点で公開 benchmark や実名 case study は見当たりません。Summaria は有効回答 18 件の利用者アンケートで総合満足や読解効率改善の評価を示し、顧客の声としてスクリーニング時間 80% 低減、読み込み負荷 70% 低減などを掲げています。AI Samurai は 100 社以上の導入、最大 40% の調査コスト削減、明細書ドラフト約 3 分生成を訴求し、さらに UX 面では Good Design Award と IP SJ の実践報告があります。Patentfield は検索クエリ検証で適合率約 3.8 倍、AIR で読解時間約 65% 短縮、加えてコニカミノルタコネクで最大 40% 工数削減、小西・中村特許事務所、ピクシーダストテクノロジーズ等の実名事例を公開しています。**評価の作法**という観点では、PatSnap が最も benchmark-centric、TokkyoAI と Patentfield が before/after 実務効果、Summaria が利用者調査、AI Samurai が導入実績・機能実績型、Genzo AI はまだ立ち上がり期、という差があります。 20

既知の限界とリスク. PatSnap は強いが、Open Platform は開発者向けで、ベンチマークも自社実施です。TokkyoAI は explainability が高い一方、モデル詳細、API、FTO/invalidity/litigation の専用機能は公開情報が少なく、生成文書だけで出願できるわけではないと FAQ でも線引きしています。Genzo AI は最も実務直結ですが、現時点ではコア 3 モジュール先行で、フル機能は 2026 年夏以降の段階です。Summaria は機能が豊富でも、保持期間・学習除外・API などの公開が薄く、汎用的な enterprise integration の見通しは限定的です。AI Samurai は弁理士監督下・最終提出文書の人手修正を利用規約で求めており、これは安全性の裏返しでもあります。Patentfield AIR は強力ですが、モデルプロバイダー API 利用が前提であり、AI 生成テキストには誤りの可能性があるヘルプセンター自身が明示しています。つまり、**エージェント型ほど「自律性」は増すが、ガバナンス・評価・説明責任の設計が重要になる**一方、従来型は**自律性より統制性・再現性**に寄る傾向があります。 21

比較表

製品	区分	エージェント性	モデル公開	主データ/RAG	主な特許機能	連携/API	価格の公開度	日本語対応
PatSnap	エージェント型	高い。Ask/Research/Solve/Draft/Validate、Novelty/FTOのmulti-step loopを公開	高い。PatSnapGPTをproprietary innovation dataで訓練したと明示	210M patents、216.3M NPL、172 jurisdictions。daily update。RAG色が強い。vector DB名は未公開	prior art / novelty、FTO、invention disclosure、prosecution history、AI search/ summaries	非常に強い。MCP、LangChain、Claude Desktop、Widget、API	Open Platformは公開あり、Eureka本体は要問い合わせ	UI日本語あり、翻訳テキストも日本語対応
TokkyoAI	エージェント型	高い。Deep Search/Analysis/Proposal、複数AIの役割分担、思考過程可視化	中程度。複数生成AI利用、ChatGPT API/4oは明示、全体構成は未公開	日本/US/CN/KR/EP/WO/審判/企業情報。意味検索と文脈一致。更新cadenceは未公開	ChatTokkyo、AI検索、明細書/請求項ドラフト、提案書、自動比較、画像検索	専用ドメイン・ダウンロードはあり。公開APIは未確認	月額35,000円/IDを公開	日本語中心、生成言語は日本語・英語
Genzo AI	従来型中心	中程度。自動化は強いがHuman-in-the-Loopが中核	比較的高い。OpenAI APIとGemini APIを明示	アップロード資料+連携外部DB。FTOや先行文献調査で外部DBを使用。vector DBは未公開	届出・出願、翻訳、OA対応、中間処理、先行文献、FTO、契約レビュー	導入支援・カスタムプロンプトあり。公開APIは未確認	年100万~1500万円を公開	日本語UI、翻訳は英・中
Summaria	従来型寄りのハイブリッド	中程度。AIアシスタント中心だが拒絶支援ワークフロー・エージェント機能あり	中程度。Azure OpenAI / OpenAI GPTは明示、fine-tune詳細は未公開	取込公報+各国公報DB。公報読解・比較・クレームチャートに強い。vector DBは未公開	対比支援、分類支援、発明評価、拒絶支援、詳細/対比クレームチャート、一括指示、ハイライト。2026年には明細書作成支援も対外発表	Word/Excel出力、共有・コメントあり。公開APIは未確認	フリー~30,000円/月をパンフレットで公開	無料は日本語中心、上位は日英独中韓仏

製品	区分	エージェント性	モデル公開	主データ/RAG	主な特許機能	連携/API	価格の公開度	日本語対応
AI Samurai	従来型寄りのハイブリッド	中程度。検索・評価・作成統合、ZERO は対話ループだが自律 multi-agent は未公開	比較的高い。GPT-3.5、Azure OpenAI、Claude、Gemini を開示	日本/US/CN 検索、類似特許最大250件参照。RAG色は強いが内部実装は未公開	検索、審査シミュレーション、A~D評価、クレームチャート、文書作成、ZERO 対話型起案、拒絶理由通知応答AIを告知	Word 出力。公開APIは未確認	要問い合わせ	日本語UI、英中翻訳
Patentfield	従来型中心	中程度。AIR は生成AIを機能に埋め込むがユーザー主導の3-step 査読フロー	中程度。API 利用モデル前提、GPT-4o/4o-mini を例示。外部 provider 利用が中心	約8,000万件 AI サマリー、主要庁+DOCDB、AI セマンティック検索。vector DB 名未公開	AI サマリー表示/検索/分析、AI 分類予測、AIR、ラベル付与、発明評価、ポートフォリオ分析	強い。API、グループウェア/Excel/ChatGPT API 連携、専用クラウド	Free/BASIC/Mini/Corp とAIR月額3万円~を公開	日本語中心、海外公報の日本語AI サマリーあり

総括

結論を一言で言えば、PatSnap と TokkyoAI の本質的な差は「生成AI機能があること」ではなく、「AI が特許実務の複数工程を自律的に束ねるかどうか」です。PatSnap はその方向を最も徹底しており、独自 LLM ・ 独自データ ・ MCP/API ・ workflow loop をまとめて公開しています。TokkyoAI は日本語実務向け SaaS とし、可視化された reasoning を伴うエージェント体験を、比較的低価格帯で提供している点が特徴です。これに対し従来型は、検索、査読、比較、分類、起案、翻訳などの**工程単位で AI を強く使う**設計で、より統制しやすい代わりに、工程横断の自律性は弱い傾向があります。²⁸

そのため、**大企業・グローバル知財・内製開発チーム**が「自社の AI stack や agent framework に patent intelligence を埋め込みたい」なら PatSnap が最も合目的です。一方、**日本語中心の知財部門・中小企業・研究者**が「すぐ使える private SaaS と explainability を重視」するなら TokkyoAI の適合性が高いです。逆に、**業務統制、専門家レビュー、段階的導入、特定工程の効率化**を重視するなら、Genzo AI、Summaria、AI Samurai、Patentfield のような従来型・ハイブリッド型が現実的です。特に Genzo AI は高度に実務寄り、Summaria は読解・比較・拒絶支援、AI Samurai は特許性評価と対話起案、Patentfield は検索・要約・可視化・API のバランスに強みが分かれています。²⁹

最後に、ユーザーが指定した技術論点のうち、**vector DB 名、fine-tune の実装方式、e-filing 連携、保持期間の詳細、評価ベンチマークの第三者独立性**は、公開資料だけでは十分に比較できない箇所が残りました。

ここは情報不足ではなく、むしろ知財 AI 市場がまだ「成果物の魅力」に比べて内部実装の透明性を十分に開示していないことの表れです。その意味でも、現時点で最も透明性が高いのは PatSnap の workflow/API 開示と TokkyoAI の process 可視化であり、従来型ツールは透明性よりも運用安定性と現場適合性で勝負している、と整理するのが最も実態に近いと考えます。 ³⁰

¹ ⁷ ¹⁴ ¹⁸ ¹⁹ ²¹ ²⁸ ³⁰ <https://www.patsnap.com/resources/blog/articles/mcp-server-for-patent-data-best-tools-2026/>

<https://www.patsnap.com/resources/blog/articles/mcp-server-for-patent-data-best-tools-2026/>

² ⁵ ⁶ ¹¹ ¹³ ¹⁵ ¹⁶ ²² <https://www.patsnap.com/ai/llm/>

<https://www.patsnap.com/ai/llm/>

³ <https://www.tokkyo.ai/pvt/support/faq/>

<https://www.tokkyo.ai/pvt/support/faq/>

⁴ ²⁴ ²⁹ <https://www.genzo-ai.co.jp/>

<https://www.genzo-ai.co.jp/>

⁸ ⁹ <https://www.patsnap.com/>

<https://www.patsnap.com/>

¹⁰ ¹⁷ <https://www.patsnap.com/ai/>

<https://www.patsnap.com/ai/>

¹² <https://www.patsnap.com/resources/blog/articles/best-novelty-search-automation-apis-for-rd-5-top-options/>

<https://www.patsnap.com/resources/blog/articles/best-novelty-search-automation-apis-for-rd-5-top-options/>

²⁰ <https://www.patsnap.com/resources/blog/patent-ai-benchmarking-explained-why-general-llms-fall-short/>

<https://www.patsnap.com/resources/blog/patent-ai-benchmarking-explained-why-general-llms-fall-short/>

²³ <https://www.tokkyo.ai/patent/deepresearch/>

<https://www.tokkyo.ai/patent/deepresearch/>

²⁵ <https://patent-i.com/summaria/brochure.pdf>

<https://patent-i.com/summaria/brochure.pdf>

²⁶ <https://aisamurai.co.jp/2023/08/23/aisamuraione-info/>

<https://aisamurai.co.jp/2023/08/23/aisamuraione-info/>

²⁷ <https://product.patentfield.com/>

<https://product.patentfield.com/>